

I E A 石油市場レポートの概要（2018年2月13日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 1月の世界の石油生産は9,770万バレル/日にやや減少したが、それでも米国の生産回復が非OPEC加盟国の生産増を下支えしているために去年の水準を150万バレル/日上回っている。
2. 1月のOPEC加盟国の原油生産は安定的に推移し、3,216万バレル/日となった。ナイジェリアの増産が他地域の減産を補った。減産協定の遵守率は過去最高の137%となった。
3. 1月の非OPEC加盟国の生産は17.5万バレル/日減少し、5,860万バレル/日となったが、去年よりは130万バレル/日高い水準。米国の原油生産は前年比130万バレル/日増加し、近いうちにサウジアラビアを上回り、年末までにはロシアに追いつくかもしれない。非OPEC加盟国の減産協定の遵守率は85%だった。
4. 2018年の石油需要の伸びは、IMFの楽観的なGDP予測もあって140万バレル/日とわずかに増加となる。これは昨年の160万バレル/日の伸びと比べると、高い石油価格や中国の需要パターンの変化、非OECD加盟国における燃料転換などが石油需要の伸びを鈍化させたため、少なくなっている。
5. 12月のOECD加盟国の民間在庫は5,560万バレル減少し、28.51億バレルとなった。これは2011年2月以来の急な減少。2017年を通じて、1.54億バレルの在庫が引き出され（一日あたり42万バレルの引き出し）、年末には過去5か年平均を5,200万バレル上回る水準まで下がった。2017年の第4四半期において、OECD加盟国全体の石油在庫が急激に減少した（130万バレル/日の減少）。
6. 2017年第4四半期に過去最高に達した後、2018年第1四半期の世界の石油精製量は設備メンテナンス季節（主に米国や中東）のために40万バレル/日減少して、8,110万バレル/日になることが見込まれる。その後、高需要期に対応し、製品在庫を補充するために4-5月に再上昇することが見込まれる。